



2015年度事業報告・決算承認 定時社員総会

6月18日に開催した京都保健会定時社員総会は、2015年度事業報告、決算、定款変更等の議案を全員一致で承認し、役員を補充しました。承認された事業報告、決算の概要は次のとおりです。

1. はじめに

2015年度は、京都保健会中長期事業計画の中心となる京都市民連中央病院リニューアルに向け移転地を確定し、事業・経営計画を策定する年と位置づけました。基本方針は、リニューアルと在宅、介護事業など地域包括ケア時代における京都保健会の新しい展開を柱に組み立て、2025年の「地域から求められる医療介護福祉機能と連携」を可能とするため、安定的経営構造を実現することを重視して進めてきました。

2. 京都市民連中央病院

総合移転に向けて

総合移転に向けた基本構想は、2015年5月から総合移転基本構想委員会にて検討し、10月から改組した移転委員会にはいくつかの小委員会と事務局を設置し、中央病院常務会の下の中中央病院リニューアルプロジェクトと二人三脚で検討を進めてきています。10月から始めた



基本計画からは、プロポーザルコンペによって選定した(株)内藤建築事務所との共同作業を行なっています。地域連携では、右京区長・保健センター所長との懇談、地区医師会との数回の懇談、移転先自治連合会との関係づくり、右京区・中京区の友好団体等への説明・懇談会などを重ねてきています。京都市民連理事・全医師集会(12月)では事業計画と医療構想の検討到達を報告、以降の京都市民連第五次長期計画(案)への反映と病院議論を促進するステップとなりました。創立60周年記念祝賀会(3月)には総合移転計画を正式発表、同月の京都府医療審議会にて右京区南太秦への中央病院移転(新規開設)の承認を受けました。中堅職員の制度教育での移転先周辺の友の会会員アンケートと訪問活動、秋の共同組織月間では、民医連以外の医療機関・介護事業所との新しい連携を模索するとりくみ、移転予定地周辺での友の会活動の強化などを中・右京健康友の会と共同してとりくみを進めてきました。

3. サービス付き高齢者住宅の開設と人権を保障する地域包括ケアの推進

2016年2月、「医療・介護と連携した良質な住まい」、「入居者の人権が大切にされ、生きがいを感じられる住まい」、「地域社会の一員として地域と共生できる住まい」、「経済的な心配ができるだけ少なくいつでも相談できる機能をもった住まい」をコンセプトにした京都保健会初の事業形態となるサービス付き高齢者住宅「咲くあん上京」を上京病院跡地に開設しました。乾隆地域包括支援センター、地元との共同作業所が運営するカフェの人居と活動が地域との新しい広がりにもつながっています。2015年2月に設置した地域包括ケア推進プロジェクトでは、法人内事業所の「人権が尊重される地域包括ケア」の実現にむけた取り組み状況の掌握と分析、認知症学習会を実施しました。

4. 構造転換事業を完了した綾部・福知山エリアの前進

2015年度は、京都協立病院の経営改善を図ることを主眼とした「綾部・福知山エリア構造転換事業」の成果が問われる年度でした。北部内での所長交代、京都市内からの病棟支援の終了など、トータルで厳しさを増した医師体制や看護体制、薬剤師体制の困難が続くなか、転換した病棟の管理運営改善の課題等を積極的に進めた結果、経常利益赤字予算から4000万円以上超過達成し、黒字へと転化、現在地へ移転後